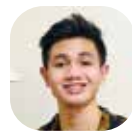


こんにちは。フィリピン出身のエドウィンです。現在、技能実習生として鳥栖市で暮らしています。好きな日本語は「どうもありがとうございます」です。なぜなら、辛い時も楽な時も、常に感謝の気持ちをお忘れなことはとても大切だからです。

フィリピンには、ボラカイ、ハンドレッドアイランドなどたくさん美しいビーチがあります。1番人気の観光地は、パラワン州コロン島です。コロン島はとても素晴らしい『冒険基地』です。ダイビング体験、ジャングルでのトレッキング、乗馬ツアーや島で



国籍
フィリピン

名前 エドウィン ヴァニヤス フェリル ユニア
年齢 25歳
好きな日本語
「どうもありがとうございます」



▲コロン島の風景

のキャンプなど、究極のアウトドア体験を堪能できます。フィリピンの文化は『家族第一主義』です。実の家族も3、4世代前にさかのぼって血のつながりのある人も、家族の一員です。ときには、親友も家族の一員とみなされる場合があります。

鳥栖市に来た時、ここが美しく穏やかなことに大変感銘を受けました。私は日本の文化、特に食べ物がおいしくて健康的なので、大好きです。鳥栖市は、九州の中でも最も安全な場所の一つです。私の夢は、鳥栖にずっと暮らして、サッカーやバレーボールを観戦することです。そして、日本に来ることを願っているフィリピンの仲間たちが、私と同じように、いつか美しい日本の光景を見ることができるといいと思います。

■やさしい日本語クイズ答え (7ページ) ①電車の時間が変わる②電車が動かない③切符を見せてください④おじいさん、おばあさん、病気の人が座るところ

とす新風土記「鳥栖市誌」を読む 第107回

吉野ヶ里遺跡の時代の鳥栖

国営吉野ヶ里歴史公園を訪れたことがある人も多いと思いますが、吉野ヶ里遺跡が最盛期であった弥生時代後期後半頃(1850年くらい前)の鳥栖地域はどのような様子だったのでしょうか。

この環濠に囲まれた範囲は、南北300m以上、東西は広いところで200m程度あったものと推定されます。

当時の中国の文献には、この頃の主に西日本には百以上のクニ(国)が存在していたと記されています。これらのクニは現在の郡(三養基郡や神埼郡など)くらいの範囲で、それぞれ拠点集落といわれる大集落を中心に周囲に中小規模の集落が配置されていました。鳥栖地域のこの時期の拠点集落は、現在の藤木町に存在したと考えられています(藤木遺跡)。

藤木遺跡が衰退した弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての時期(1800年くらい前)、広く近畿地方から北部九州地方にかけて環濠のある拠点集落が一斉に廃絶する事態がみられ、大きな変革が当時の社会にあったと考えられます。吉野ヶ里遺跡や藤木遺跡も、環濠が一気に埋められるとともに、集

落は終焉を迎えました。その後、鳥栖地域の拠点集落は現在の蔵上町から養父町にかけて移動・展開し、古墳時代を経て奈良時代の養父郡家(郡の役所)へとつながるものと考えられています。

現在の藤木町はその後の長い歴史で再び集落として利用されてきました。発掘調査も部分的にしか実施されていないので、吉野ヶ里遺跡のような全体像をつかむことは困難ですが、今後の調査によって物見やぐらや大型建物跡などが見つかるかもしれません。(鳥栖市誌第2巻第2編第3章第2節より)

環濠が復元すると幅が約6m以上、深さは約3m以上に

なっています。断面はV字形です。環濠の中からは、当時の日常生活で使われた多くの土器とともに青銅器の鋳型も見つかりました。



▲調査中の藤木遺跡の環濠

「鳥栖市誌」発売中

「鳥栖市誌」は、市教育委員会生涯学習課、油屋本店、古賀書店、市役所内売店などで取り扱っています。詳しくは、同課(☎0942-85-3695)へ。



「記事ID」をご利用ください

市ホームページの記事ID検索窓に、市報に掲載しているIDを入力することで情報を確認できます。